解答例A

未来の図書館は、読む負担が少なく短期的な流行に左右される多数派の要求や、本を探す個人が「今意識しているニーズ」に応えるだけでなく、その本人自身気づいていない潜在的な要求に応えなければいけないと筆者は言う。つまり「潜在的な要求」とは、過去の体験や記憶の集大成である自己が、その時点で自らは気づいていないだけで、内的に探究していくと見つかるような心の琴線に触れる深い内的な要求のことである。未来の理想の図書館は、こうした未知の読者の「潜在的な要求」にも応えられるものであってほしい。

その立場から、私は三つの要件を備えた図書館を提案したい。

第一は、これまでの人類の基礎的知識を網羅した図書館だ。日本では、私たちは高校までに、先人が勉強したり技術を開発したりして培った知識のうちの基礎的なものを学習する。それらの知識は膨大で、教科というカテゴリーに分けられたり、常識的で道徳的なもの、体育や音楽など身体的なものだったりする。その意味で、選書の方法は「どれかに偏ることなく高校卒業時点の膨大な基礎的知識を広範囲に網羅した」選び方でありたい。もちろん知識の置き方は実際の紙でなくても良い。データとしてサーバー空間上にあり、それらを取捨選択すればいつでも取り出せるものであるべきだ。蔵書が備えるべき特徴は後世に残る重要で基礎的な知識でありたい。

第二に、その取り出し方を工夫する図書館であってほしい。取り

出すためにはカテゴライズしなければならない。しかし、関心のある複数のキーワードを入力すれば、本人は自覚していない潜在的関心を見つけ出し教えてくれるような“頭のよい”検索エンジン、探索のできるツールの開発が待たれる。それは、今後、ディープラーニングを重ねた生成ＡＩ自体が見出して開発できる可能性もある。生成ＡＩと検索エンジンの融合は未来の理想的な図書館の形態を示唆する。意識されていないが深いところに沈んでいる「自己」に気づけるような本との出会いをもたらす図書館は素晴らしい。

第三は、人類の未来への可能性を探索できる図書館である。米国の科学誌の示す人類の終末時計は残り八十九秒に迫るなど、現状は厳しい。しかし、環境問題の解決の方向性等の提示を含め、今の人類の未来に向けた英知を示す書やデータに触れ、特に若者が学べる場としての図書館に期待する。